

U.S. Indicators

発表日: 2023年5月24日(水)

米国 信用状況の引き締めも拡大ペース加速(5月PMI)

～サービス業主導で民間需要は拡大ペースを加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年5月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、54.5(前月53.4)と前月比で1.1%p上昇し拡大縮小の分岐点である50を3カ月連続で上回った。3、5月に米中堅銀行が破綻したにもかかわらず、同統計調査対象企業の活動は活発化しており、民間需要の加速を示唆している。

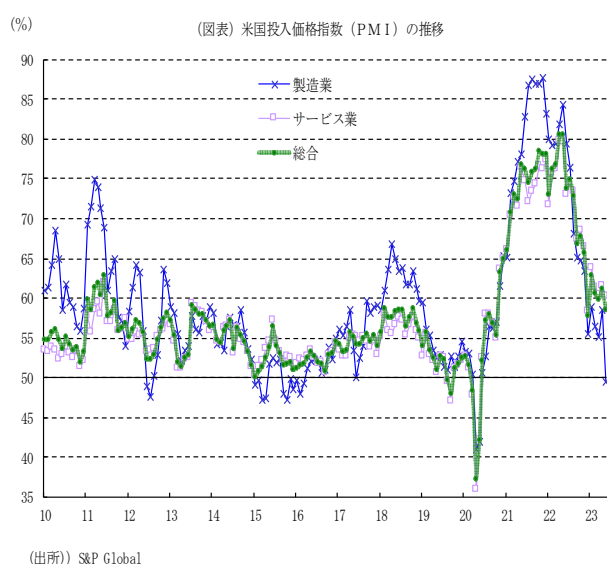
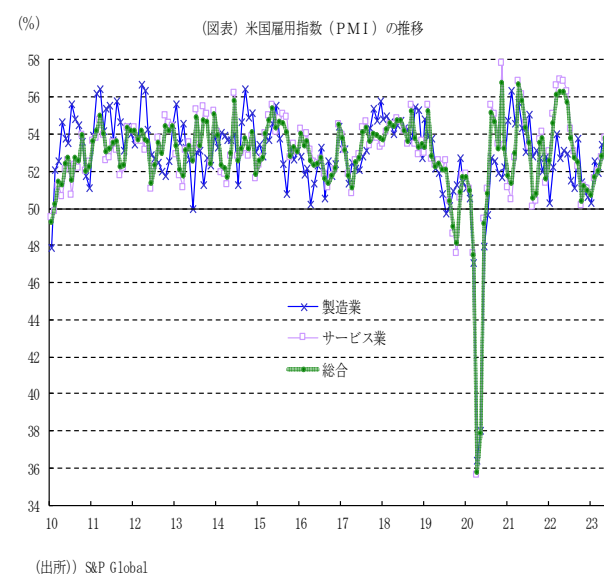
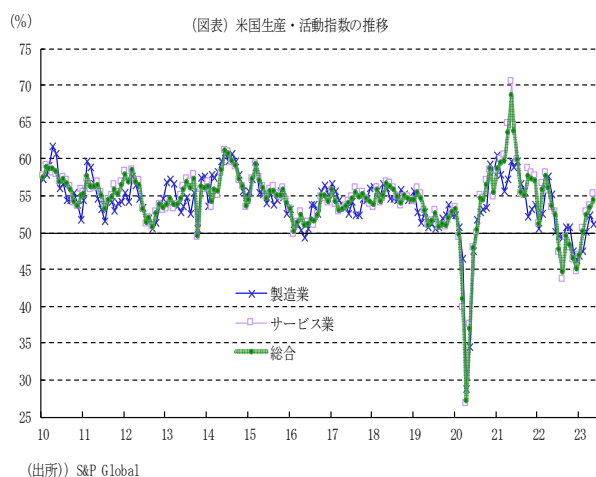
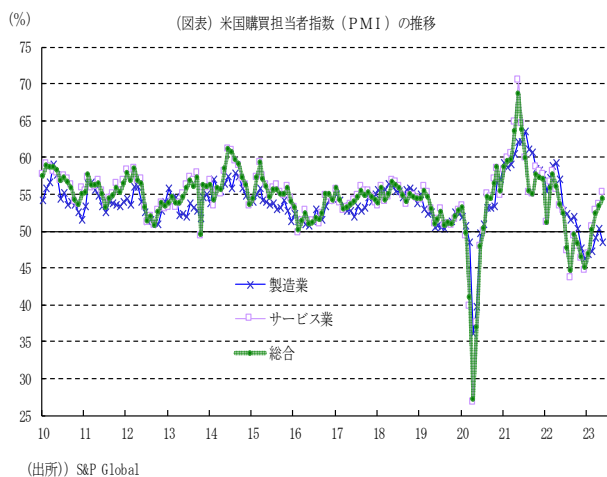
製造業は48.5(前月50.2)と新規受注の大幅な低下により前月比1.7%p低下し、50を再び下回った。グローバルな製造業部門の調整、先行き懸念を背景に、製造業は縮小傾向にある。一方、サービス業は55.1(前月53.6)と前月比1.5%p上昇した。内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に4カ月連続で50を上回るなど、サービス業は拡大ペースを速めている。

雇用関連は、製造業、サービス業ともに上昇しており、雇用の堅調な増加継続を示している。一方、インフレ関連では、投入価格指数、産出価格指数がともに低下した。特に製造業では、産出価格指数が50.9(前月58.0)とグローバルな調整の影響で大幅に低下しており、消費者段階での財価格上昇の抑制が期待できよう。

製造業では、雇用が53.5(前月53.4)と上昇した一方、新規受注が47.1(前月50.2)、生産が51.0(前月52.4)、在庫が46.4(前月48.7)と低下した。寄与度では、雇用が前月比+0.02%pの押し上げ寄与となった一方、新規受注が前月比▲0.91%p、生産が前月比▲0.34%p、入荷遅延が前月比▲0.26%p、在庫が前月比▲0.23%pの押し下げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が55.1(前月53.6)と信用状況が引き締まるなか、サービス業の業況はより強まった。雇用が53.8(前月52.7)と上昇し、雇用の拡大ペース加速が示されたほか、新規受注が55.6(前月52.3)と大幅に上昇しており、サービス業の拡大が継続するとみられる。また、見通しを示す「将来の活動指数」が68.6(前月67.2)と高い水準に上昇、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を強めており、サービス業活動が堅調さを維持すると予想される。

基調をみると、総合PMIは4、5月に53.9と1-3月期の49.7から上昇、米企業活動の拡大を示す水準を回復しており、米民間最終需要の加速を示している。GDP統計では、4-6月期の民間最終需要は1-3月期に加速した反動等で鈍化するとみられるが、急激な鈍化の回避が示唆された。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。